

日本生物地理学会臨時評議員会議事録 (Zoomによるオンライン会議)

文責：陰山大輔

日時：2024年1月30日 午後8時～午後9時30分

参加者：太田英利、春日井治、陰山大輔、蒲生康重、幸塚久典、瀬能宏、立原一憲、寺山守、鶴崎展巨、富川光、細谷和梅、本村浩之、森中定治、三中信宏、山根正気（評議員17名中15名が参加、欠席は、浅川満彦、川勝正治）

経緯と概要：庶務幹事長の蒲生が進行役となり、議長選出について参加者に諮った結果、蒲生が議長をすることとなった。議事録作成者として陰山が立候補して承認された。会長挨拶の後に、①会則・細則の変更案についての審議と採決が行われた。また、②第79回大会のシンポジウム等の説明と意見交換がなされた。更に、③標準和名に関するアンケートへの対応、④前会長から引き継いだ倉庫保管資料の扱い、⑤ホームページ作成協力者などについて報告があった。

1 会則・細則の変更について

会則・細則の変更点について、あらかじめ提出された会則改定案の新旧対比表、細則の改定案新旧対比表を用いて、春日井が説明を行った。

条文の主な変更点は、これまで事務局としていた部分を事務局会として執行体制を明確にしたこと、議事録を会員が閲覧できるようにしたこと、会長、副会長、評議員の任期を設けたこと、大会企画を事前に評議員会に報告するようにしたこと、予算作成の根拠を明確にしたことなど（主な意見は次のとおり）。

瀬能：役職の立場・内容について整理する必要があるのではないかと？生物地理学会では、会計監査や評議員が役員になっていて、会長と評議員が独立（対等）でない。評議員は、会長や会長が率いる実務を担う執行部（幹事会）とは独立であるべきではないか？

春日井：昨年8月の評議員会とその後のやり取り、アンケート結果を参考に改訂案を作成した。会計監査や評議員会の扱いなど、改善する点はあると思うが、今回議論していない点は、提案に含めていない。

瀬能：事務局会という名称はともかく、執行部の範囲が明確になった点は改善された。評議員の立ち位置は、執行部とは別になる。

蒲生：事務局会は行政府であり、評議員会は国会という関係だと思うので、独立

した立場が必要だと思う。

陰山：一般的にはどうなのか？例えば魚類学会ではどうなっているか？

瀬能：他の学会を網羅しているわけではないが、少なくとも魚類学会では、学会長と評議員は独立です。日本生物地理学会の会則には違和感はある。

春日井：昨年8月の改定案（春日井と陰山の共同提案）を作成する際にも、現在の会則を大きく変更することは考えなかった。問題点は感じているが、他の学会並みにするには、相当な議論が必要と思った。

三中：日本生物地理学会を30年見てきたが、他の学会や一般社団法人などとは違う雰囲気がある。当学会では、昔ながらのやり方が残っている。評議員は名誉職で、会長を中心に運営がされてきたという状況がある。

陰山：他の学会並みに変わっていく必要があるのか、それともそれを曖昧にしておくほうがいいのか？

三中：当然変わっていかないと学会として続かない。

瀬能：事務局会としたことは進歩である。今やろうとしていることはその方向にあると思う。将来像は今後議論すべき課題だ。細かな点だが、細則の変更箇所に書かれた「会長・副会長は再任できない」とはどういうことか？

春日井：一度就任したら、その後いくら間を開けようと再任できないという意味。

瀬能：小規模学会でそれは難しいのではないか。自分の理解は、会長、副会長はやる人がいなくなることも考えると、2期続けてはダメだが、間をおいてからできるようにしておいた方は良いのではないか。ゆるくしておいた方が良いと思う。

春日井：確かに運用面では心配な面がある。多数の意見を踏まえたつもりだったが、評議員の意向を確認していただければと思う。

蒲生：それでは、会長、副会長は、1期（3年）を終わった後に続けて再任はできないが、間をおいて再任可能とするかどうかの賛否を問いたい。

⇒結果：賛成多数で、「会長・副会長は、連続しては再任できない」に決定した。

蒲生：細則の改定案の第15条で「会長および副会長は、連続しては再任できない」とした上で、会則と細則の改定案を総会での承認に回すかどうかの採決をしたい。⇒結果：賛成多数で、新会則・細則を総会に諮ることを決定した。

春日井：会員に改定案を周知するため、ホームページに会則・細則の提案を掲載する。

2 第 79 回大会の開催準備について

2-1 市民シンポジウムについて

森中：市民シンポは、もともと一般発表の数が少なくなっていたので、その空いた時間を埋めるために長く半日をとって行うようになった。今回の件を受けて、2 時間に収めることにする。今回は次の 2 名の先生に講演を依頼した。

更科 功 武蔵野美術大学教授

「絶滅の人類史」「進化論はいかに進化したか」の著者。

山田 俊弘 広島大学教授 「正義の生物学」「絶望の生態学」の著者。

細谷：興味深いテーマではあり、反対するわけではないが、市民シンポジウムで人間をテーマにする際には慎重に行っていただきたい。

森中：ありがとうございます。

蒲生：シンポジウムのタイトルは早めに決めないといけないのでは？

森中：タイトルは『人類の生成と消滅』とする。

2-2 シンポジウムについて

三中：来年度から発足する新学部の準備に昨年からは追われているため、時間がとれず、シンポジウムの準備はできていない。どなたか候補がいれば教えていただきたい。

瀬能：魚類関係なら数人声をかけることができる（温暖化がらみで）。

2-3 一般発表について

森中：要旨締め切りが 3 月 15 日なので数が集まるように声をかけて欲しい。

3 その他の報告など

3-1 和名命名に関するアンケート（日本分類学会連合 標準和名問題検討 WG）

蒲生：どなたか詳しいかたにお願いします。

瀬能：本村さんお願いできますか？

本村：承知しました。

3-2 倉庫で保管されている資料の処分について

森中：保管されているもののほとんどは生物地理学会誌のバックナンバーだ。

瀬能：データ化していないのか？国会図書館にデータベースが収納されていないのか？

三中：国会図書館デジタルコレクションのことですね。以前すべてのバックナンバーをデータ化したのだが、退職時の引っ越しの際に CD-ROM を紛失した。

瀬能：スキャンのされ方によって質が変わる。

森中：処分の際、瀬能さんに来ていただけるか？

瀬能：今年度末に退職するため、4月以降で調整していただきたい。

3-3 ホームページの協力者について

森中：ホームページの協力者を募ることに對して私を含め保留にしたいと考える評議員もいたが、春日井さんの判断で昨年12月に会員からアンケートをとった。

瀬能：アンケートの結果では、ホームページ作成の協力可能者が2名おられることが分かった。知っている人でもあるので、今すぐ声を掛けるわけではないが、候補として控えておきたい。

春日井：協力可能者の2名には、瀬能さんの名前を伝えておきます。

以上